

科学哲学教育の実践例

塩野直之
東邦大学理学部

本発表では、今日の科学哲学教育の一実践例として、発表者が昨年度まで所属していた福井県立大学における事例を紹介します。比較的小規模な地方公立大学である福井県立大学は、さまざまな意味で日本の諸大学のなかで中くらいの位置づけにあると言え、そこにおける科学哲学教育も、やはり大規模な有名大学とは異なる工夫が必要になります。そうした点が学会参加者諸氏のご参考になればと思い、報告させていただきます。おおむね以下の点に関して説明する予定です。

- 大学の学部構成および定員と、「科学哲学」選択者の学年学部別人数。
- 一般教養科目における哲学や科学基礎論に関連する諸科目の配置と、その中での「科学哲学」の位置づけ。
- 一部の学部が専門科目として設置している「科学者および技術者の倫理」などの科目と、「科学哲学」との住み分け。
- 講義においてカバーした内容の概略。
- 教科書、参考書として学生に指定した書籍と、教員（私自身は心の哲学や行為論が専門で、科学哲学が専門とは言い難い）が用いた文献。
- 学生の関心や知識と、授業中に取り上げる具体例をそれに応じてどのように工夫したか。